

燧ヶ岳・会津駒ヶ岳キャンプ山行

山行日 2020年7月18日(土)～20日(月)

参加者 L/M山N S/Y崎 W辺M I谷 S木H K田

コース 7月18日 柏駅8:00＝桧枝岐かわばたキャンプ場15:00

7月19日 キャンプ場5:30＝御池6:00-雪渓9:00-天神田代-燧ヶ岳
9:50/10:20-御池13:35

【7月18日】

数日前から何度も天気予報をチェックして、行けるかどうかヒヤヒヤしながら、当日を迎えた。集合場所の柏も雨！これでは、燧ヶ岳はどうなるだろうと言いながら出発した。進むにつれて雨は上がり、途中で食材を調達しながらキャンプ場に到着。

テントとタープを張り、早速食事の準備した。何を手伝ったら良いのやらオロオロする間に、火を起こして料理の準備が整っていく。この日のメニューは、ラムのバーベキュー、生ソーセージのホットドッグ、岩魚の塩焼き、たっぷりの野菜とI谷さん差入れのスイーツ、その他もろもろ、翌朝食のおにぎりまで用意した。これがテント泊？ M山さん、Y崎さん両シェフの何とも豪華なメニューにビックリした。初めてのビッグテントは快適、川のせせらぎを聞きながら、ぐっすり眠った。



【7月19日】

晴れ、それもかなり良い天気だ。メンバーに強力な晴れ男晴れ女がいるのか、普段の行いが良いのか。登山口からけっこうな急登と岩場が続く。歩きはじめてヒーヒー言いながら約1時間ほど高度を上げた。雪渓が残る箇所があり、涼しさにホッとしつつも慎重に歩を進めた。少しずつ湿原が現れ、ワタスゲが姿を見せ始めた。この花は何？ S木さんから答えが



ポンポンと返ってくる。ニガナ、タテヤマリンドウ、サワラン、アマドコロ…忘れないように連呼。嬉しい。そして、目の前に広がる一面の湿原。真っ直ぐ続く木道、池塘に吹く風が気持ちがいい。ワタスゲがふわふわと風になびく中を、写真を撮りながらゆっくり歩いた。この風景は好きだな。いつまでも見ていられるけれど、先を進む。山頂直下は最後の踏ん張りどころ、

そこを越えて山頂へ。

雲は晴れて、眼下には尾瀬沼、尾瀬ヶ原その向こうには至仏山が。思えば前日の出発時、天気が悪いなら登れなくても仕方がないと思った事が申し訳ないくらいの景色だ。来て良かった、頑張ってた。思う存分堪能した。ありがたい。

下山後、温泉で汗を流して夕食。ブルスケッタ、キノコのペンネ、タラコスパゲティ、つまみにポテトフライなどなど。皮ごとスライスしてじっくり揚げる、かき回さないのがコツなのだそうだ。

空を仰ぐと、木々の間の雲間から星空が見え、午前中は天気は持ちそうだと確認した。さあ、いよいよ3日目は会津駒ヶ岳だ。（鎌田）※写真は丸山様より



【7月20日】

行程 かわばたキャンプ場 6:15=滝沢登山口 6:25/40-1230m 付近 7:00/7:05-1530m 付近 7:45/55-1630m 水場付近 8:15/25-1860m 付近 9:20/25-駒ノ小屋 10:00/10:25-駒ヶ岳 10:50/11:00-駒ノ小屋 11:20/11:25-1630m 水場付近 12:20/30-1360m 付近 13:00/05 -滝沢登山口 13:35

朝一番から、急な登りと階段が続く。合わせて樹林帯のため、風が無い。昨日のトマトとバジルのブルスケッタ、セロリとイカ燻の和え物、ポテト・カボチャフライ、ペンネアラビアータ、タラコスパゲッティ、ビール、ワイン(赤・白)、ウイスキー、チューハイ、日本酒等の豪華イタリアン宴会が裏目に出て、汗が止まらない。いつになっても飲みすぎの後悔は、後を絶たない。

しかし、目を転じ周りを見渡すと、ブナの大木が空高く私たちに覆いかぶさる。その一本一本が、映画「トトロ」の森のごとくそれぞれに樹形を変え、味のある風貌を醸し出している。畏敬の念を感じずにはいられない。

しばらく登るとブナの大木は姿を消し、代わりにシラビソが増えてきた。シラビソは北八ヶ岳などで群生し慣れ親しんでいるが、ここのシラビソは、とてつもなく太くでかい。きっと何百年もの間、この山をじっと見続けてきたのだろう。

「シラビソの樹液って、すごーくいい匂いなよ」とSさん。「私も聞いたことがあります。」とKさん。「そー言えば、爽快な香りがするような気がする。」とYさん。

しかし、私の隣では、Iさんが虫よけスプレーを、シュッ シュッ シューツ。

シラビソの繊細な香りは、ハッカの香りに紛れ、最後まで分からなかった。

「ガスが上がってきたから急ごう。」との声で足早に出発。木々の背丈も低くなり草原が見え始めた。こうなると植物観察会の始まりである。「先生」に名前を確認したり、教え

でもらったり、写真を撮ったり。その数も季節柄多く、いっこうに前に進まない。素人の私には皆同じに見える山野草も、それぞれ名を持ち可憐な花を咲かせ、ひと夏を謳歌している。

ハクサンコザクラの咲き乱れる駒ノ小屋を經由し、駒ケ岳頂上へ。

ガスで視界が無いが、晴れば見えるであろう山々の立派な絵地図が鎮座していた。滑りそうな木道に気をつけ、下山開始。



今回、終始配慮いただくとともに豪華宴会メニューを準備いただいた丸山リーダー。そして、同行のすばらしいメンバーと出発時の土砂降りを良い天気に変えてくださった神様に感謝。(WM)

大先生によると、今回の山行で見られた花々は

ハクサンコザクラ アカモノ マイヅルソウ ハリブキ イワイチョウ ベニバナイチゴ カラマツソウ チングルマ ミツバオウレン シャクナゲ ワタスゲ コバイケイソウ ハクサンチドリ オトギリソウ ゴゼンタチバナ ウラジロヨウラク ツマトリソウ ショウジョウバカマ サワラン トキシソウ タテヤマリンドウ ギンリョウソウ キヌガサソウ キンコウカ ネバリノギラン コケモモ イワカガミ サンカヨウ キンポウゲ モウセンゴケ 等